

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 04071058 A

(43) Date of publication of application: 05.03.92

(51) Int. Cl

**G06F 15/00**

(21) Application number: 02184820

(71) Applicant: NEC CORP

(22) Date of filing: 11.07.90

(72) Inventor: ASANUMA KOICHI

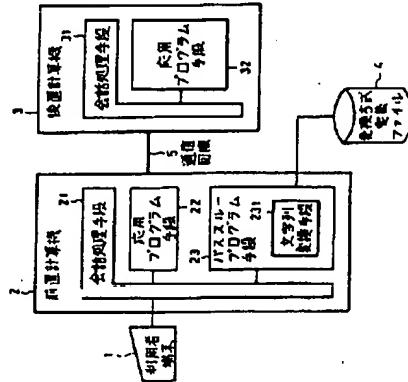
(54) COMPUTER SYSTEM

COPYRIGHT: (C)1992,JPO&Japio

(57) Abstract:

PURPOSE: To make it unnecessary for a user to memorize his own user identification(ID) information by automatically forming the user ID information in a back-end computer from user ID information in one computer.

CONSTITUTION: A pass through program means 23 is started by inputting a command from a user terminal 1. At the time of this starting, the means 23 is connected to a conversation processing means 31 through a communication circuit 5. Since user ID information is inputted to a user ID function in the means 31 at the time of completing the connection, a character string conversion means 231 converts the user ID information of a front-end computer 2 in accordance with a conversion system defined by a conversion system defining file 4. The converted user ID information is inputted to the means 31 in order to identify the user. After opening a session, a text inputted from the terminal 1 is transmitted to the back-end computer 3 through the circuit 5 and the received text is outputted to the terminal 1.



⑩ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開  
⑫ 公開特許公報 (A) 平4-71058

⑤Int. Cl.<sup>5</sup>  
G 06 F 15/00

識別記号 330 B  
厅内整理番号 7218-5L

③公開 平成4年(1992)3月5日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

④発明の名称 計算機システム

②特 願 平2-184820  
②出 願 平2(1990)7月11日

⑦発明者 浅沼 弘一 東京都港区芝5丁目7番1号 日本電気株式会社内  
⑦出願人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目7番1号  
⑧代理人 弁理士 井出 直孝

明細書

1. 発明の名称

計算機システム

2. 特許請求の範囲

1. 利用者端末に接続された前置計算機が後置計算機に通信回線を介して疎結合され、

前記前置計算機および前記後置計算機それぞれに、

入力された利用者認証情報に対する利用者認証を行うとともに、入力されたコマンドおよびまたはテキストを解釈して会話処理を実行する会話処理手段

を備えた計算機システムにおいて、

前記前置計算機に、

前記後置計算機ごとに定義された利用者認証情報が格納された変換方式定義ファイルを設け、

入力された文字列を定められた手順にしたがって変換し呼び出し元に通知する文字列変換手段を

含み、

前記利用者端末から前記後置計算機の応用プログラム手段を利用するための入出力テキストの中継を行うとともに、前記後置計算機の利用者認証問い合わせに対し利用者認証情報を定義された変換手順にしたがって変換されたテキストとして送出し、利用者認証手続きを自動的に行うバスループログラム手段を備えた

ことを特徴とする計算機システム。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

本発明は、計算機システムのセキュリティ管理に利用する。本発明は、疎結合計算機システムにおける利用者認証情報の管理に関する。

【概要】

本発明は、前置計算機および後置計算機としての関係で利用される複数の計算機が通信回線を介して疎結合された計算機システムにおいて、

後置計算機の利用者認証情報を前置計算機の利

用者認証情報から自動的に生成できるようにすることにより、

利用者が利用者認証情報を記憶していく毎回入力しなくとも利用者を認証することができ、利用者の負荷を軽減して操作性を向上させることとしたものである。

#### 〔従来の技術〕

従来の疎結合の構成をとるような計算機システムでは、それぞれの計算機に利用者認証の機能があり、ある計算機から他の計算機を後置計算機のような形態で利用するときでも利用する計算機の利用者認証情報などの情報はまったく別々に管理されているため、後置計算機の利用者認証情報を毎回入力してから利用を開始する方法がとらわれていた。

#### 〔発明が解決しようとする課題〕

このような従来の方法では、疎結合の構成をとるような計算機をある計算機からみたときに後置計算機のような形態で利用するときにおいても、それぞれの後置計算機の利用者認証情報を利用者

が記憶しておく必要があり、また、利用開始時にその利用者認証情報を毎回入力する必要があった。

本発明はこのような問題を解決するもので、利用者が認証情報を記憶しておく必要をなくし、利用開始時に認証情報の入力を不要にすることができるシステムを提供することを目的とする。

#### 〔課題を解決するための手段〕

本発明は、利用者端末に接続された前置計算機が後置計算機に通信回線を介して疎結合され、前記前置計算機および前記後置計算機それぞれに、入力された利用者認証情報に対する利用者認証を行うとともに、入力されたコマンドおよびまたはテキストを解釈して会話処理を実行する会話処理手段を備えた計算機システムにおいて、前記前置計算機に、前記後置計算機ごとに定義された利用者認証情報が格納された変換方式定義ファイルを設け、入力された文字列を定められた手順にしたがって変換し呼び出し元に通知する文字列変換手段を含み、前記利用者端末から前記後置計算機の応用プログラム手段を利用するための入出力テキ

ストの中継を行うとともに、前記後置計算機の利用者認証問い合わせに対し利用者認証情報を定義された変換手順にしたがって変換されたテキストとして送出し、利用者認証手続きを自動的に行うパススループログラム手段を備えたことを特徴とする。

#### 〔作用〕

前置計算機に接続された利用者端末から、後置計算機の会話処理手段で動作する応用プログラム手段を利用するための入出力テキストの中継を行うとともに、後置計算機の利用者認証問い合わせに対し前置計算機の利用者認証情報を定義された変換手順にしたがって変換されたテキストとして送出し、利用者認証手続きを自動的に行う。

これにより、それぞれの利用者認証情報を利用者が記憶し、利用開始時にその利用者認証情報を毎回入力することなくすことができ、利用者の負荷を軽減して操作性を向上させることができる。

#### 〔実施例〕

次に、本発明実施例を図面に基づいて説明する。

第1図は本発明実施例の構成を示すブロック図である。

本発明実施例は、利用者端末1に接続された前置計算機2が後置計算機3に通信回線5を介して疎結合され、前置計算機2および後置計算機3それぞれに、入力された利用者認証情報に対する利用者認証を行うとともに、入力されたコマンドおよびまたはテキストを解釈して会話処理を実行する会話処理手段21および31と、応用プログラムを実行する応用プログラム手段22および32とを備え、さらに本発明の特徴として、前置計算機2に、後置計算機3ごとに定義された利用者認証情報が格納された変換方式定義ファイル4を設け、入力された文字列を定められた手順にしたがって変換し呼び出し元に通知する文字列変換手段231を含み、利用者端末1から後置計算機3の応用プログラム手段32を利用するための入出力テキストの中継を行うとともに、後置計算機3の利用者認証問い合わせに対し利用者認証情報を定義された変換手順にしたがって変換されたテキストとして出し、

利用者認証手続きを自動的に行うバススループログラム手段23を備える。

次に、このように構成された本発明実施例の動作について説明する。第2図は本発明実施例のバススループログラム手段23の動作の流れを示す流れ図である。

まず、利用者端末1からコマンドを入力することによってバススループログラム手段23を起動する(ステップ61)。この起動によりバススループログラム手段23は通信回線5を介して会話処理手段31に接続される(ステップ62)。接続が完了すると会話処理手段31の利用者認証の機能に対して利用者認証情報を入力するために、文字列変換手段231が前置計算機2の利用者認証情報を変換方式定義ファイル4で定義された変換方式にしたがって変換する。この変換した利用者認証情報を利用者認証を行うために会話処理手段31に入力する(ステップ63)。

セッション開設後は、利用者端末1から入力されたテキストを通信回線5を介して後置計算機3

に送信し、また受信したテキストを利用者端末1に出力する(ステップ64)。

#### 【発明の効果】

以上説明したように本発明によれば、疎結合の構成をとるような計算機をある計算機から後置計算機のような形態で利用するときにおいても、それぞれの後置計算機の利用者認証情報を一つの計算機の利用者認証情報から自動的に生成することができるために、それぞれの利用者認証情報を利用者が記憶しておく必要がなく、また利用開始時にその利用者認証情報を毎回入力することなく利用者を認証することができ、利用者の負荷を軽減して操作性を向上させることができる効果がある。

#### 4. 図面の簡単な説明

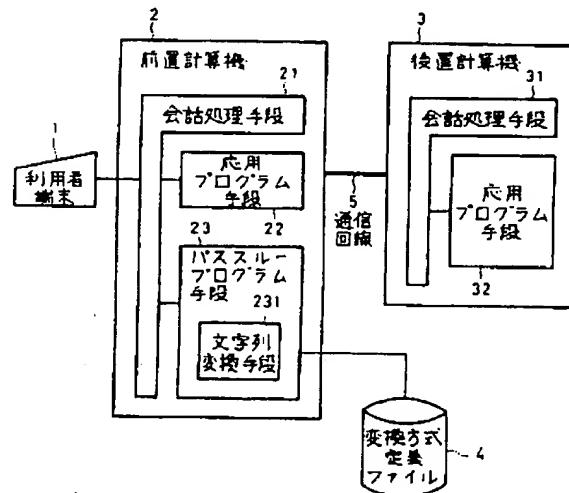
第1図は本発明実施例の構成を示すブロック図。

第2図は本発明実施例のバススループログラム手段の動作の流れを示す流れ図。

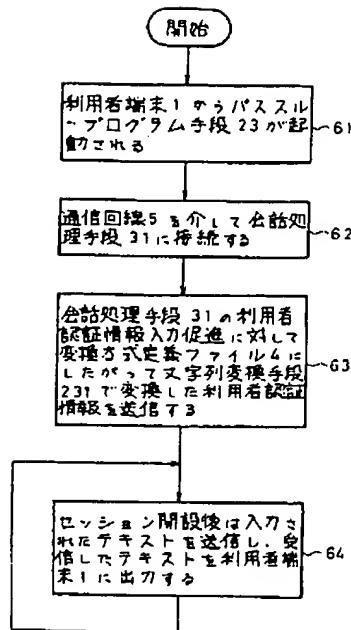
1…利用者端末、2…前置計算機、3…後置計算機、4…変換方式定義ファイル、5…通信回線、

21、31…会話処理手段、23…バススループログラム手段、22、32…応用プログラム手段、231…文字列変換手段。

特許出願人 日本電気株式会社  
代理人 弁理士 井出直季



第1図 実施例



第 2 図 実施例 パススループログラム手段の処理